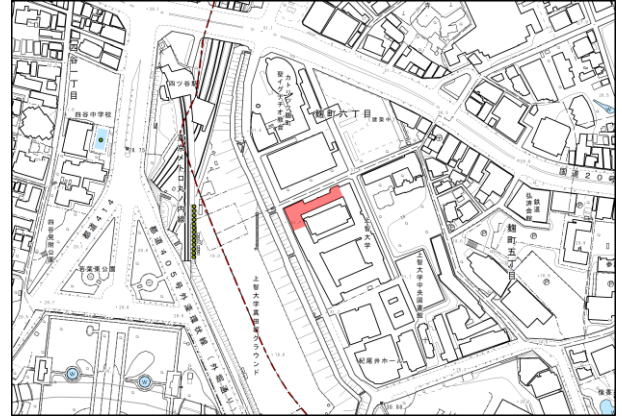


7

千代田区景観まちづくり重要物件

上智大学一号館

指定日	2003（平成 15）年 6 月 9 日
所在地	紀尾井町 7 番 1 号
設計者	マックス・ヒンデル建築事務所
竣工	1932（昭和 7）年
文化財等 指定状況	-



▲上智大学一号館

歴史・文化的特徴

上智大学は、イエズス会（カトリック修道会のひとつ）が、1912（明治45）年に高嶋鞆之助子爵邸やそれに隣接する邸宅を買い求めて設立した大学です。

当初の建物は1913（大正2）年に完成していましたが、関東大震災により崩壊したため、1932（昭和7）年に現建物が再建されました。

大正から昭和初期にかけて、日本各地のカトリック教会を設計したスイス人の手によるドイツ風の学校建築で、残存例として貴重な建物となっています。

意匠・構造の特徴

校舎はボリュームがあり規模が大きいです。

外壁は、1階が花崗岩のルスティカ積み、2階以上の壁面を赤色二丁掛けタイル貼りとし、RC造校舎としては個性的な色彩を持っています。

外観は、全体的に各階の窓の上下にリブを付けられ、水平線を強調したシンプルな印象が強いです。

正面1階の窓はアーチとし、その周りのスパンドレルパネルや上部窓の横にゴシックの幾何学模様を持つ褐色のテラコッタを用いるなど、装飾性の強い部分も見られます。

千代田区西神田一丁目に、同じヒンデル設計のカトリック神田教会（1928年竣工、国登録有形文化財）があります。



▲外壁の質感

周辺景観との関係

上智大学正門の真横に位置し、外濠の土手からの眺望にも優れています。

キャンパス内にあるクルトゥルハイム聖堂と共に、歴史的景観を形成しています。